

2年連続で全国大会へ アンソメット岩手八幡平

第17回全国クラブチームサッカー選手権大会東北予選会は9月18日から20日まで、山形県総合運動公園で行われ、八幡平市に本拠を置くアンソメット岩手八幡平は、代表決定戦でF Cパラフレンチ米沢(山形県)を延長の末下し、10月30日から11月3日まで新潟県で開かれる全国大会へ昨年に続いての出場をつかんだ。



大量12得点で初戦突破
アンソメット岩手八幡平(以下、「アンソメット」)の初戦は、ラストイング郡山(福島)との対戦。立ち上がりから試合の主導権をつかんだアンソメットは、3分にドリブルで持ち込んだF W山口将造選手のゴールで先制すると、その後もF W山口選手とF W藤井貴選手がハットトリックを決めるなど立て続けにゴールを奪い、終わってみれば12対0の圧勝で初戦を突破した。

1人退場も延長戦制す
代表決定戦は、F Cパラフレンチ米沢(山形)と対戦。序盤からアンソメットが決定機を作るもなかなかゴールを奪えない。0対0で後半に突入すると55分、M Fリカルド・ベルメーリョ選手がこの日2枚目の警告で退場に。一人少ない展開を強いられるものの失点を許さず、試合は20分の延長戦へ。すると延長7分、M F松下晋也選手のパスを受けたF W藤井選手が待望の先制点を鮮やかに決める。これで勢いに乗ったアンソメットは、同13分にD F寺石勇斗選手、同15分にはF W山口選手がゴールを決める。激闘の末、

**アンソメット岩手八幡平
サッカースクール開校中**
■期間 10月23日までの毎週土曜日
■時間 午後3時から5時まで
■場所 いこいの村岩手体育館
■対象 小中学生
■受講料 全8回5,000円(初回無料、受講回数で変わります)
申し込みなど詳しくは、アンソメット岩手八幡平事務局(☎76-2161、担当:藤村)まで。

3対0でF Cパラフレンチ米沢を下したアンソメットは、昨年に続き2年連続となる全国クラブチームサッカー選手権大会出場の出場券をつかんだ。全国大会は10月30日から11月3日まで新潟県で開かれる。2回戦から登場するアンソメットは10月31日、バジリナ大阪F C(大阪)と富山新庄クラブ(富山)の勝者と対戦することが決まっている。

9月22日に市役所へ報告に訪れた丸山富洋選手兼監督は「選手には、勝ちたいという気持ちが生えている。昨年の悔しさを胸に、今年は優勝を狙いたい」と全国大会への抱負を語った。

広報 はちまんたい
Oct.2010 No.113

CONTENTS

●目次

- 02 **Zoom Up** 人 齊藤洋子さん
- 03 **Front Topics** アンソメット岩手八幡平全国大会へ
- 04 **特集** 平成21年度決算
- 10 **連載企画** スキーインターハイの舞台へ
- 11 **Sports Result**
- 12 **Photo Topics** 小学校陸上競技会
- 14 **Event** 山賊まつり
- 15 **各課からのHOT LINE** 新型インフルエンザ予防接種助成名護市交流の翼参加者募集
- 16 **話題ピックアップ** はちまんたい大集合フェスタ ほか
- 18 **福祉ネットワーク** 保健のひろば 介護のココロ 環境のみらい
- 19 **まちの企業探検隊⑩** ㈱ツカサマイクロニクス われらスポーツ少年団**No.5** 八幡平市空手道スポーツ少年団 広報クイズ
- 20 博物館だより 図書館だより
- 21 よろこび おくやみ 人口の動き 交通事故件数など
- 22 **INFORMATION** お知らせ
- 24 八幡平いにしへの宝 留の沢一里塚・七時雨一里塚



今月の表紙

第6回市小学校陸上競技会は9月15日、松尾陸上競技場で開かれました。市内11小学校から選ばれたアスリートたちはトラックとフィールドの36種目で記録を競い合いました。(写真=4年女子400mリレーで優勝した安代小、関連記事12・13頁)



齊藤 洋子 さん

さいとう・ようこ 68歳 大久保

◎profile

昭和16年八幡平市(旧西根町大更)生まれ。24歳のときに結婚、平舘に嫁ぐ。昭和63年民生児童委員に就任。ほかに西根町手をつなぐ育成会事務局など歴任。現在は、市社会福祉協議会評議員も務める。趣味は写真撮影(市内の風景を中心に)。好きな言葉は「みんな仲良く暮らす」。「内気だが、やると決めたことは徹底して取り組む性格」と自己分析。血液型O型のいて座。

長

誰にも心を開き接する 地域の頼れる相談者

年にわたり地域の身近な相談者・民生委員児童委員として地域福祉に貢献した功績がたたえられ、9月10日に行われた県民生委員児童委員大会で県知事表彰を受けた。

齊藤さんが民生委員児童委員を引き受けたのは昭和63年。当時は、民生委員児童委員が何をするのかも知らなかった。無我夢中だった」と振り返る。家を訪れても出てくれない人、メモを書いたり何回も足を運んだりした。

そこでつかった信頼は、地域の福祉に「なくてはならない」存在となった。

「地域の皆さんに支えられ、ここまでできた。私自身、毎日楽しく過ごす元気をもらっている」と語る齊藤さん。

「全国で発生しているような高齢者が所在不明になったり死亡していたりすることが起きないように、地域の一人として誰にでも心を開いて見守りなどをしていきたい」と決意を新たにしたい。